



「総合格闘家:DEEPミドル級チャンピオン中村和裕先生による」夢の教室

校長 梶谷 雅弘



体育館にて、中村先生を投げる5年生



夢曲線を使い、熱く語る中村和裕先生

昨年度2月17日に、JFA（日本サッカー協会）こころのプロジェクトとして、元サッカー全日本代表の波戸安康氏を先生にお迎えし、「夢の教室」を実施して頂きましたが、今年度も、総合格闘家の DEEP ミドル級チャンピオンの中村和裕先生にお越し頂き、「夢の教室」を5年1組・みなみん学級、5年2組のクラスごとに実施して頂きました。先ず、JAEF スペシャルスタッフの井手口純氏の指導の下、体育館で、ゲームを行いました。井手口氏が提示したゲームに勝つために、中村先生と児童が一緒になり知恵を出し合って取り組みました。その中で、自然と児童と中村和裕先生との信頼関係が築かれていきました。そして、後半は、それぞれの教室で、中村和裕先生が活躍しているビデオを見せて頂き、その後、どのようにして現在を迎えたか、そして、中村和裕先生の現在の夢と、5年生への「自分の夢に向かって勇気をもって挑戦しよう」というメッセージを熱く語っていただきました。5年生は、「ユメセンカード」に、一人一人の夢とそのために先ず何をするかを記入し、翌日、そのカードを事務所に送付しました。お忙しい中、中村和裕先生が一人一人の児童への励ましのメッセージを書き返送して頂けることになっています。

中村和裕先生は、12月21日に、ディファ有明で引退試合をするそうです。現在、大学で柔道を教えるため、早稲田大学大学院で学んでいるそうです。

5年生・みなみん学級の児童にとって一生の宝物になるかけがえのない貴重な時間となりました。

「読むこと自体をゴールにしない、子どもの力につなげる読書活動

～東京都練馬区立南田中小学校・南田中図書館～

- 1) 図書館連携で可能になる「並行読書」の効果
- 2) 高度な連携を可能にする学校図書館支援員の役割
- 3) 目的意識をもった読書で子どもの力を育てる
- 4) 地域連携も組み込んで子どもの自己肯定感を生む

小学館の「総合教育技術11月号」の読書活動を充実させる実践&アイデア集の実践レポートで紹介された本校の教育実践のタイトルと小見出しです。

私と清水達郎教諭、村上光紗教諭、尾原由記学校図書館支援員へのインタビューを記事にしました。今回のインタビューは、これまでの本校の教育活動を振り返るよい機会となりました。

今年度の6年生の全国学力・学習状況調査で、国語・算数のB活用問題で、共に全国トップの秋田県の平均点を上回ったことを以前お知らせしましたが、その要因を探ると、当初、設定した研究主題に辿り着きました。「『読むこと』を大切にし、自分の考えを表現できる子の育成」と主題を設定し、読解表現力の向上を目指し研究をスタートさせました。読むことや表現することをそれぞれ達成するだけでも大変なのという不安がありました。本を読み、そこで見つけたことをみんなに向けて自分の言葉で表現できるようにと授業改善を積み重ねてきた成果が結果がとなって表れたのではないかと考えています。これからも、南田中図書館と連携した教育活動を進めて参ります。

